様式1 # 令和5年度　山梨県立甲府南高等学校学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	将来、日本や国際社会の様々な分野で活躍し、社会の発展に貢献できる人材の育成を図る。

県立甲府南高等学校長　篠 原　健

本年度の重点目標	
	1　活用力や探究力を高める授業を展開し、確かな学力の定着を図る。
	2　様々な体験を通じて、他者を思いやり、社会の絆を深める「しなやかな心」を育てる。
	3　体育活動・文化活動を積極的に推進し、心身共に健全な生徒を育てる。
	4　生徒の個性を活かし、自己の生き方・在り方を考えさせる進路指導を積極的に行う。
	5　スーパーサイエンスハイスクールにおける主体的・協働的な探究活動を深め、課題解決能力を育てる。

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価

番号	本年度の重点目標：評価項目	具体的方策	方策の評価指標	年度末評価（令和6年2月26日現在）：自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	各教科における見方・考え方を働かせ、探究的な活動を通して、活用できる知識・技能や、複雑な事象・内容を解決するための思考力・判断力を育てる	授業目標を明確にした指導と評価の一体化を実現する授業により、生徒の思考力・判断力・表現力を養う 生徒の主体的で協働的な学びにより・探究力や課題解決能力を養う 自分の考えを整理する機会や発表する機会を設定し、言語活動の充実に努める 教材や資料の共有化やICTの効果的な活用を図る	授業観察 小テスト 授業アンケート 学習の記録表 課題の状況把握 定期試験への記述問題、発表における総合評価、日常の授業での評価の充実 授業参観 授業アンケート	・各教科で設定した目標に対して、指導法及び評価方法等を教科会議やカリキュラム委員会で継続的に検討・研究し、教科間の繋がりを図るとともに、1・2年生においては新学習指導要下での効果的な3観点による学習評価の運用に取り組んだ。 ・課題研究を軸に、日々の授業の中にも探究活動の場面を取り入れ、生徒の主体的で協働的な学習活動を促すための工夫を継続した。 ・授業や課題研究において可能な限りグループワーク等を取り入れ、発表、発信、周囲の意見を聞く場面を設定した。 ・一人一台端末の導入により、ICT機器を活用した授業展開、課題の提示また、すべての教科でBYODの活用方法を検討し、効果的なICT活用事例の共有を図った。	B	・授業改善や指導法および評価の研究、研修の場として、教科会議をさらに活発なものとなるよう促していく。また、相互授業参観を活性化し、学習課題のあり方について検証し、授業改善につなげていく。 ・各教科において主体的で協働的な学習活動を推進するとともに、教科横断的な視点で課題発見、課題解決が図れるよう教科間の繋がりを強めていく。 ・ICTを効果的に活用し、生徒一人ひとりが成果をまとめたらり、発表する場面をより多く設定していくとともに、定期試験の作問研究など、記述力を試したり、高めていく工夫を検証していく。 ・一人一台端末の導入等により、ICT機器を積極的に活用することで、発展的で深い学びとなる学習活動の研究をしていく。
2	様々な体験を通じて、他者を思いやり、社会の絆を深める「しなやかな心」を育てる	ボランティア精神の啓蒙に努め、主体的なボランティア活動を推進する 通学時マナーアップ運動と連動した安全登校や挨拶・身だしなみの指導を展開する 道徳教育を推進し、しなやかな心を持つ、人間として調和のとれた生徒の育成に努める 関係機関との連携やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用により、生徒のメンタル面のケアと教育相談の充実を図る	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ1000回運動 環境委員会活動 ｲﾝﾀｰｱｸﾄ委員会活動 遅刻者数の統計調査 事故違反者数の統計調査 LHRでの活動 各種行事等の実践事例 学年保健連絡会実施	・ボランティアに対する全体的な数字はコロナ禍以来低迷しているものの回復も見られた。 ・現状や実態を踏まえ、生徒会や生活委員会の活動として生徒に呼び掛け、生徒が主体的に取り組む安全教育の推進また、マナーのあり方を考えた。 ・外部の協力を得ながら、効果的な講演会の計画実施し、生徒自身のキャリアデザインに繋げた。 ・年間165時間のスクールカウンセリングを実施し、生徒と保護者、教職員への相談体制の充実を図った。また学年保健連絡会並びに特別支援校内委員会を5回ずつ実施し、スクールカウンセラーや教育センターの担当者からアドバイスを受けながら、様々な問題を抱えた生徒について、個々の事案を共有し、状況の改善、解決を図る一助とした。	B	・情報発信に努めボランティア精神を啓発し、潜在性を引き出して社会貢献の機会を増やしたい。 ・安心安全な学校を目指し、調査で見えてこないいじめの状況や交通安全教育などの一層の充実を目指す。 ・学校での人間関係だけでなく家庭環境に起因する悩みを抱える生徒が相変わらず多い。また発達障害やそれに近い状況を抱え、日常生活や集団生活に適応することが困難な生徒もおり、学校全体での協力体制の構築と、対応策の検討が急務である。問題解決は容易ではないが、利用者のスクールカウンセリングに対する満足度は高いので、今後も引き続きカウンセラーをはじめとする関係機関の助言を受けながら、保護者や担任、学年との連携を密にして生徒支援につなげていく。
3	体育活動・文化活動を積極的に推進し、心身共に健全な生徒を育てる	部活動を計画的・効果的に進め、学校の活性化と生徒の心身の健全な育成に努める 文化的・教養的行事等を通じて生徒の豊かな感性の育成に努める 体育的行事等を通じてスポーツに親しませ、体力向上に努める 月2回のきずなの日を完全実施する中で、計画的に部休日を設ける	各種大会の結果 部活動への参加率 外部参加者へのアンケート調査 新体カテストの実施 生徒アンケートの実施 活動計画書・活動実績書	・部活動加入率は男女ともに100%を超え、積極的な活動が行われている。高校総体の女子総合5位、男子総合7位と健闘し、20種以上の部活動が全国(関東）大会出場を果たしている。 ・生徒が自主的・主体的に学校行事を企画運営し、4年ぶりの一般公開による学園祭を通して創造性や公共心が育成された。 ・全員参加で楽しめる体育祭や球技大会を、生徒主体により計画実施している。 ・県のガイドラインに従って休養日を設け、計画的な部活動運営を行った。	B	・行事の精選や効率的運営に努め、部活動と学業との両立を支援し、部活動に取り組みやすい条件や環境を整えていく必要がある。 ・一般公開の学園祭や歌声コンクール等の行事において、内容の充実と質の向上を図り、自覚と責任の認識とともに豊かな感性や公共心を育成したい。 ・球技大会の1日開催を実現し、インクルーシブ教育を推進しながら全員参加の体育的行事を拡充していきたい。 ・計画的な部休日の実施を確実にするため、月間計画表を継続し、充実した高校生活につながる部活動運営を推進したい。
4	生徒の個性を活かし、自己の在り方生き方を考えさせる進路指導を積極的に行う	ホームルームや総合的な探究の時間を中心に、体系的プログラムによるキャリア教育を推進する 生徒の進路希望をふまえ、ガイダンス機会を設け、個別最適な学びを実現する学習や個別指導・課外を行う キャリア形成を主体的に行えるよう、自己の進路と社会の諸問題を結びつけて考えさせる	発表における自己評価 及び相互評価を発表する機会の設定 課外の実施回数 生徒アンケートの実施 講演会や講話の実施 小論文指導	・新型コロナが5類に移行し、各種課外、模擬試験、学習会を通常通り実施することができた。 ・職業人講座やライフプランニング力育成講座など、キャリア教育に関する活動についても、計画通り実施できた。 ・今年初めての試みとして難関大学対策の研究会を行った。他校との合同形式での実施や、本校教員を講師とした大学別対策会を行った。	B	.・土曜日の活用については負担と感じる生徒・教職員もいるが、本校の特色となる取り組みであり、多くの教職員の苦心により一定以上の成果をあげてきたものである。形式、回数などについて検討しながら継続していきたい。 ・生徒・教職員より、講演会の数が多く集約しきれないとの声を聞く。講演会の精選が必要だと思われる。 ・小論文・面接の個別指導に加えて、一般受験を中心とした教科の個別指導を充実させていきたい。
5	スーパーサイエンスハイスクールの活動において、各生徒の研究テーマをもとに、主体的・協働的な探究活動を行い、県内の高校へ成果を発信する	学校設定科目「フロンティア探究」を通して課題研究に全校で取り組み、学びに向かう力をつける。成果の公開・普及を行う 高大接続プログラムを開発し、ポートフォリオやルーブリックの研究を行う サイエンスイングリッシュや研修旅行を通じて、実践的英語力を育成する	研究発表会 指導者連絡会議 生徒・教員アンケート実施 ポートフォリオ ルーブリック サイエンスイングリッシュ 連携校との交流	・ICTを効果的に活用し、ほぼ計画どおりの運営が実施された。生徒アンケートでは、SSHの取組が、学習への興味関心につながると約90%の回答が得られた。教員調査でも生徒は協力して課題研究に取組んでいると98%の回答が得られた。また、県自然科学研究発表会で1研究が芸術文化祭賞受賞、日本学生科学賞県議会長賞受賞、高校生プログラミングコンテスト2023優秀賞など、多くの活動で入賞した。 ・ポートフォリオについては、これまでの成果を普及する目的で、ホームページより公開を行った。また、データベースについても県内の高校で共有を図った。 ・5年ぶりに海外研修を実施した。コンケン大学付属高校との交流では、韮崎高校、日川高校も参加し4校での研究発表会を実施した。	B	・課題研究が充実し主体的なテーマで研究を行い、テーマも多様化している。生徒の多様な学びに寄り添うために、「南高SSアカデミー」の拡大と、会員の方々による、課題研究メンター制度の導入を検討し、スムーズな指導ができるようなプログラムを構築する。また、各種大会・発表会において、各方面との連携をさらに強化し、国際科学コンテストや科学の甲子園をはじめとした全国大会での上位入賞を目指す。 ・ポートフォリオの効果だけでなく、実際の活用やルーブリックによる指導指事例についても紹介していく。 ・コンケン大学付属高校との研究交流会をさらに発展させ、協働研究を行っていく。また、研究発表会についてもさらに参加校を増やしていきたい。

学校関係者評価

実施日　（令和6年3月1日）

番号	評価	意見・要望等
1	4	・スクールミッションとして難易度の高い進学先の実績を求められ、大変であることは承知している。そのうえで、最難関大学合格が少ないとさみしい。 ・学校運営協議会（CS）が設置された後、現状の学校評議員会はどうなるか。 ・甲府南高校が行っている「親からのメッセージ」のようなことを、地域の人(人選は慎重を要する)にボランティアでお願いしたい。私が考える、「教育の質向上」は生徒に様々な良質な刺激を与えることだと考えている。 ・生徒達に自力で考える力をつけて欲しい。 ・各教科で教材や教授法を工夫して、生徒の発達段階に応じた教育を展開している。 今後、課題等について研究をさらに深めていってほしい。
2	3	・以前より教員数も減ったが、取組む内容は減っていない。働き方の改善を考慮すべき。 ・生徒主体のオープンキャンパスを実施できてよかった。・ヤングケアラーの問題一つとっても、クラスの担任が一人一人きちんと面談をすれば、潜在的なケアラーの発見は可能だと思う。しかし、教師にその余裕はなく、発見してもその後のフォローも課題だ。 生徒としっかりした面談指導(複数の教師による複数回の面談が望ましい)が行えるような環境が整うことが肝要だと思う。 ・いじめ、薬物などはネット空間で行われる。指導が難しいが、早期対応、登校時の生徒の顔をよく見る・生徒観察を意識すること。教科指導中においても同様である。 ・コロナ禍の影響が残っており、以前のような体験活動がままならない中、「心」の育成を推進していたと思う。
3	4	・各種大会等で優秀な成績を収め、「文武両道」を実践していることに敬服している。 ・ボランティア1000回は生徒数が1000人近いころのスローガン。いま、700人なので、一人1回では達成できない。
4	4	・授業の充実が大切であるので先生方がお互いに学び合い高め合い、生徒の学びにつなげてほしい。 ・家庭学習（予習・復習）のあり方を考えてほしい。 ・今年度の卒業生も、その多くが自分の進路希望を達成したことはすばらしい。
5	4	・現状概ね良好である。 ・授業が大切である。相互授業参観が活発になればよいが、教員の空き時間に問題もあるのだろうが、環境整備をすること ・授業が大切である。先生達が授業研究できるような環境づくりに取り組んで欲しい。 ・今後一層、20年にわたるSSHの成果を積極的に県下に知らしめてほしい。